

JSAF 外洋系委員会 合同会議議事録

I 日 時 平成24年2月3日(土) 13:00~18:00
平成24年2月5日(日) 8:40~12:00

II 場 所 ホテル松島大観荘

III 議題

0. 児玉 JSAF 常務理事あいさつ
00. 大坪外洋安全委員長 あいさつ
1. レース委員会外洋小委員会
2. ルール委員会外洋小委員会
3. 外洋計測委員会 1 IRC 委員会
4. 外洋計測委員会 2 ORC 委員会
5. 外洋計測委員会 3 セイルメジャラー部会
6. 国際委員会
7. キールボート強化委員会
000. 河野 JSAF 会長 あいさつ
8. 外洋安全委員会
9. 外洋総務委員会
10. 加盟団体報告 全体討議

IV 出席者

河野博文(JSAF 会長)、児玉萬平(JSAF 常務理事)、剥岩政次(JSAF 理事・レース・計測・外洋安全・外洋南九州)、中澤信夫(JSAF 理事・キールボート強化委員会委員長)、木立正博(JSAF 理事・外洋津軽海峡)、守本孝造(JSAF 理事・外洋近北・日本未二トン協会)、坂谷定生(JSAF 理事・外洋東海)、寺澤寿一(JSAF 事務局)、鈴木保夫(外洋総務委員会委員長)、林賢之輔(外洋計測委員会委員長)、吉田豊(外洋計測委員会 IRC 委員会)、長谷川淳(外洋計測委員会 IRC 委員会)、角晴彦(外洋計測委員会 IRC 委員会)、富川則之(外洋計測委員会 IRC 委員会)、竹内誠(外洋計測委員会 IRC 委員会)、東島和幸(外洋計測委員会 IRC 委員会・外洋安全委員会)、水越英次(外洋計測委員会 ORC 委員会)、山下博史(外洋計測委員会 ORC 委員会・外洋三崎)、大澤光正(外洋計測委員会セイルメジャラー部会)、大坪明(外洋安全委員会委員長)、羽柴宏次(レース委員会外洋小委員会)、大村雅一(ルール委員会外洋小委員会・外洋東京湾)、日下部大蔵(ルール委員会外洋小委員会)、小林昇(国際委員会・外洋内海)、久保田悟(キールボート強化委員会)、高橋博之(宮城県連・外洋安全委員会)、餅啓一(宮城県連)、我妻幸一(宮城県連)、庄司一夫(宮城県連)、棚

橋善克（宮城県連）、塩脇傳英（長崎県連）、森下勇示（長崎県連）、久保勤（外洋北海道）、小鷹祐介（外洋北海道）、伊藤彰男（外洋三浦）、浅井一省（外洋駿河湾）、藤田順行（外洋駿河湾）、川合紀行（外洋東海）、三浦信郎（外洋東海）、永松馨介（外洋内海）、上坂和功（外洋内海）、中川裕正（外洋内海）、山本一弘（外洋西内海）、田村治久（外洋西内海）、田原達也（外洋南九州）、伊良波一郎（外洋沖縄）、坂本賢司（日本 IRC オーナーズ協会）、石黒健太郎（日本 IRC オーナーズ協会）、伊藤勇（日本 X-35 ワンデザインクラス協会・外洋安全）、平生進一（東京ヨットクラブ）、宮川昌久（東京ヨットクラブ）

V 議 事

0 児玉 JSAF 常務理事あいさつ

昨年の鹿児島以来 3.11 を含め様々な大変な問題があったが、全国的な協力を頂き、様々なキャンペーンなど実施することができた。また被災地である松島で合同会議が行われることを大変うれしく思う。これからも全国的な盛り上がりを期待したい。

00 大坪外洋安全委員長 あいさつ

ここで得られた情報を各水域に持ち帰り、各加盟団体の会員に報告していただき、レースの主催、運営、あるいは参加などにしっかりと活用できるようにお願いしたい。

1 羽柴 レース委員会外洋小委員長より議題 1. に関して報告

外洋小委員会は外洋系レースの問題を洗い出しワーキンググループで、全国標準化を進めている。

これまでは外洋系レースの成績出等 問題が多くあった、そのため外洋小委員会では基本的な内容をホームページにまとめて活用して頂けるようにした。その他レース開催関係資料はほぼ網羅している。

オープンレースへの意見を集めており、JSAF 登録艇以外の参加について現状登録艇でない艇もレースに多く参加している傾向が見受けられる。登録する方向の対応をお願いしたい。

配布資料に関して意見は何も出なかったが、最終ページ 『公認審査の簡素化』について、意見があれば聞かせていただきたい。

2 大村ルール委員会外洋小委員長 議題 2. について

一般的な RRS ではなく外洋系に主として採用される部分について説明した。

これまで RRS はディンギー向け部分が多かったが、2009 年よりエンジンの使用に関する条文が追加された。外洋レース規則 2009 の説明、海上衝突予防法の適用についての説明が行われた。

海上衝突予防法についてはレース委員会外洋小委員会ホームページに解説が載っている。
来年のRRS改正でも外洋レースを意識した改正も行われる方向である。
ルール委員会についても若手の育成が問題・重要となってきた。

03 林外洋計測委員長 外洋計測委員会について

IRC委員会、ORC委員会、セイルメジャー部会 各会があるが、詳細は後程の委員会で報告する。

PHRFの検討を始める、運用する目安として各地方にあるデータの収集に協力を頂きたい。

→艇種・付与されているハンディキャップ・ハンディキャップの設定理由・レース結果等

3 吉田外洋計測委員会 IRC委員会委員長

IRC委員会は毎年のルール変更に対する講習会とIRC会議を同時に開催している。また今回もこの合同会議に合わせて昨日と本日の午前中に計測員養成講習会を行った。新規の養成講習会への参加者は10名で、新潟、福島、宮城、青森、北海道から受講者が集まり予定通り終了した。

昨年度は エンドースドの計測を行う新規の計測員の認定を3名行った。関東1名、関西2名。

IRCの普及のためにIRC委員会としては活動を開始した当初から全国的な展開を考えて、アリアンレース、火山めぐりヨットレース、パールレース、全日本ミニトン選手権、全日本ミドルボート選手権、ジャパンカップ、青函レース でのIRC採用を目標としてきたが、最後まで残った「青函レース」でのIRCの採用が今年度確定した。これで日本の全地域の主要レースでのIRCの採用が決まった。委員会としては引き続き、新規にIRCが採用された地域でのレース参加艇へ便宜を図るために、現地の計測の実施について計測員の派遣や該当地域での講習会を開催する予定である。

また 昨年の更新が始まった時期に証書に記載の誤った数値(HSA)が記入された証書が発行された。これら40枚の証書で、これはIRC委員会のテクニカルコミッティーが更新証書をチェックの時に見つけたものであった。これに対しては ホームページに発行された誤記載の数値の正誤表を掲げて告知して、併せて RORC には再発行をするように働きかけた。この結果 RORC 側から再発行が行われて、2月の末には 登録艇のオーナーの方々へ 事の経緯を説明した文章とお詫びの文章を添えて、再発行証書を送った。レースの活発になる時期の前に処理を終えて、ユーザーへの影響も最小限に抑えられた。

来年度はRRS,ERSの更新時期に当たり、IRCの講習と共に それらの講習も行う必要がある。来年に関しては計測員の講習会を 全国の5か所程度で講習会の開催の予定をしている。

続いて 昨年度の事業報告と今年度の事業計画の説明を行った。(事業計画、報告書の添付書類参照)

IRC コングレス(パリ開催)へ 角さん(レーティングオフィス)と IRC オーナーズ協会の事務局長の坂本さんが参加した。 kongress に関しては 角 IRC レーティングオフィスより報告があった。

kongress 報告としては 世界的にみると IRC 登録艇は若干の減少があった。日本は世界での登録艇数としては 8 番目に当たり、276 隻の登録と 354 枚の証書の発行を行った。IRC ルールへのオーナーからの提案と議決については 日本 IRC オーナーズ協会が 3 票の議決権を持って議題に対して対応した。

2012 年の IRC ルール変更に関しては ジェノアとメインセールに従来設定されていた計測点でのローリミットが削除されて、実数を申告することとなった。との報告があった。これは実態に即した改正である。

長谷川 IRC 委員会事務局より会計中間報告があった。今年度の更新の申し込みの動きが遅く予定ほど進んでいなかったが ここにきてペースが上がっている。年度末に向けてそれなりにプラスに進んでいくと思っている。つまり 今年度の期末の決算では黒字を確保できると予想している。

IRC 委員会は鈴木一行様(外洋三崎、JSAF 国際委員会)より寄付(50 万円)を頂き、若手の育成や IRC の普及の進んでいない地域での計測員の派遣や講習会等の費用に活用していきたい。今年度も同氏からの寄付が予定されている。またホームページ上のバナー広告を増やしていきたいので協力のお願があった。

4 水越外洋計測委員会 ORC 委員 議題 4. に関して

証書更新について ORCC は大幅に値下げした。(新規 ¥18,000- 更新 ¥13,000-)

証書の発行までの日数は、1~3 週間を標準とするが、昨年実績で多くは、10 日前後で発行した。最短 5 日の例もあった。

VPP の変更点 スピンネーカー展開高さ、面積、スターンオーバーハング

ORC レーティングについて、世界全体で No.1 の艇数を誇り昨年も 5%ほどの伸長があった事、世界的に活発な活動、オーストラリアやスペインで ORC 回帰の動きが見られる事、世界選手権におけるハイパフォーマンス艇の活躍、ORR や HPR との関係、ORC レーティングの優位性、などの説明があった。

ORC セイラーサービスのデモンストレーションも行われた。

吉田 IRC 委員長より ORCAN の事業報告、会計報告・予定などを JSAF の公益法人への移行もあるので 今後の合同会議で報告したほうがよいかとの提案があり、ORCAN に持ち帰り検討となった。

5 大澤外洋計測委員会 セイルメジャラー部会 議題 5. に関して

セイルメジャラー部会の活動報告が行われ、ジャパンカップ 2011 に関しては 9 艇 セイルインベントリーリストとセイルに記載された計測値を目視で確認し、問題なければ大会ス

タンブを捺印した。HHBに関してはすべて計測とした。

水越ORC委員よりORC、IRCルールでのヘビーウェザージブの面積について質問があり、大坪安全委員長より行われるレースに合わせ適用される旨説明があった。

6 小林 国際委員より議題 6. に関して

国際委員会の組織と役割の説明があり、続いてISAF、ORC2011 年次総会報告があった。

ISAF 中での外洋関連委員会とその活動内容の説明があった。

スペシャルレギュレーションサブコミッティーにおいてはPFD、ストームセイル等の基準も決まってきた。多くのアイテムがISO 基準の適用がなされ、内容理解が困難となっている。オセアニックオフショア委員会では遠距離外洋レースとの関わりを深め、それらの主催団体との定期ミーティングも持たれている。

外洋関連ではないが、ISAF ではセーリング普及の活動が近年活発でMNA への援助もなされている。

JSAF でもこの分野を検討すべきだと思われる。

ORC と IRC の現況説明と、昨年から注目されてきた、ORC、RORC/UNCL (IRC) との将来統一ハンディキャップルールを目指す事項について初めて共同声明文が提示された。

JSAF 国際委員会としてはアジア諸国、特に韓国と中国との連携を強化すべきである。

7 中澤キールボート強化委員長 議題 7. に関して

今期新設された委員会で、現役学生ディンギーセーラーへのキールボートの普及を主として活動している。

現役若手セーラーに声をかけ、現在の問題点を抽出、まとめ、今後の方向性を示した。

キールボートシリーズ相模湾 2012 第 1 回が 2/5 開催され年 5 回開催予定。

JYMA 選抜大学対抗マッチレースが 3/10~11 愛知県日産マリナーナ東海にて行われる。

その他質疑応答が行われた。

以上で 2 月 4 日 18 時 会議は閉会とされた、続きは翌 2 月 5 日 8 時 40 分より開始とした。

000 河野 JSAF 会長 あいさつ

自ら現場に赴き、皆様と一緒に動いていきたいと思う。

少しでも会員・登録艇を増やし若者の手助けになれるようにしたい。

東京にオリンピックを招致するため動き出している、そのため全国的な盛り上げ、協力をお願いしたい。

8 大坪安全委員長 議題 8. に関して

日本では 4 月 1 日より適用される。

設備備品に関しては ISO 基準に変更されているが、国内の状況により対応する部分もある。

変更のポイントの説明があった（消防カバー、レーダーリフレクター、ストームジブ、トライスル）

ライフジャケットの国内仕様及び SR 仕様に関しては国内の状況を踏まえ現状維持とする。しかしながら JCI、国土交通省との会議のなかで大坪委員長より話をしているが法律がかかわってくるのでなかなか進まない。

ストームジブの視認性 これまで推奨であった蛍光色については、今年度より義務とし、ストームセイルの面積に占める着色範囲は 50%以上とする。

2014 年以降のストームセイルに関しては着色されたクロスを用いて作成することが義務付けとなった。

大澤セイルメジャラーより、現在多くのセイルは着色面積が 50%以下となっているため、春のレースまでに対応、周知が必要であるとの発言があり、これを受けて児玉常務理事よりすべてのオーナーに負担をかけることはいかなるものかとの問いがあったが、海外では多くの船がすでに対応していること、まだペイント等の着色での対応でよいとのことでこの通り実施する。

レースオフィサーに対するセーフティレギュレーション講習はレースオフィサーに対する負担にならないかとの声があり、通常の講習ではなく、RO 向けの講習を行うことで検討していくことに。

そのほか無線、イエローブリック、スポット、MICS 等の情報が合わせて紹介された。

9 鈴木 JSAF 総務委員より議題 9. に関して

会計報告、On Breeze の開設、外洋艇登録規則、メンバー登録数、外洋会議議事録に関して報告があった。

このまま会員が減少して行くと本会のような会議を行った場合の費用、インフラ整備等の負担が最終的にはできなくなり、立ち行かなくなってしまうことになるので、来年度は OPEN レースのあり方について、主催者から意見をしたいとの話であった。

吉田 IRC 委員長より、前述の「外洋会議」に関して 外洋会議は JSAF の組織図には載っていないけれども 外洋がその意思を決定する上で どのような位置付けなのか との質問があった。児玉常務理事は 総務委員会が種々の問題に関して検討を行い、そこで纏まったものを外洋会議に上げて 外洋全体の意見を集約した上で 理事会にあげる手順になっている。また 理事会は外洋系に関しては ほぼ上がってきた議題通りに決定していくので、外洋会議が実質の最高決定機関であるとの説明があった。

吉田 IRC 委員長より、外洋系の意思決定の過程において 決定する手続きや機関、責任の所在、運用方法等が文章によって明確化されていない。それを文書化して開示する必要があると思われるので文書の作成手続きを行ってほしいとの要望がなされた。また 外洋会議が外洋系の意思決定の最高決定機関とするならば、参加者、発言権などを示した文章が必要であるし、外洋総務委員会を組織する構成員やその内容について開示していただきたい

いとの見意が出された。

鈴木総務委員長より、現在の委員は植松副会長、児玉常務理事、鈴木総務委員長、外洋加盟団体三崎の近藤、野田、浅野、湘南の平井理事、東京湾の山本、JSAF 事務局の寺澤であり必要に応じてキールボート・広報担当者が参加すると説明があった。

これに対して 吉田委員長は 総務委員会の委員は関東だけの委員で構成されている。地方の委員も入れるべきだし、その検討もしていただきたいとの発言があった。

10 加盟団体報告・全体討議 各加盟団体より報告、予定について

外洋三崎 山下 3/11の影響で3本予定されたレースのうち4月のレースが中止となった。夏のレースに関してはチャリティーレースとして実施することができた。10月の神子元島レースに関してはディスタンスレース参加艇の減少により、中止となってしまった。

宮城県セーリング連盟 高橋 外洋部ができて1年たつが、現状 3/11を生き残った船で活動しており予算もなく厳しい状況ではあるが、士気を落とさず活動していきたい。

外洋内海 永松 内海では震災の影響による中止等はなく、しかし経済的に厳しい状況が続いている。オープンレースに関して言えば関空レースには 70~80 艇が参加したが、IRC 取得艇は9艇で残りがオープンクラスでの参加であった。また大きなレースでは阿波踊りヨットレースも IRC、オープンがありその前日に行われる徳島レースでは IRC 参加艇が15艇前後参加している。島精機カップでは順調に参加艇が増え、IRC で 20 艇を超えるような大会になった。

外洋西内海 登録艇は減る方向であり、外へレースをしに行く艇も2艇程度である。会員も減少しているがマリナー単位での安全講習会等を行っている。去年までスポンサーレースをおこなっていたが、予算がかかりすぎるため今年度は実施しない。また普及もうまくいっていないが、諦めず頑張っていきたい。

南九州 鹿児島は現在 IRC 取得艇 26 艇、新規でミニトン 5 艇前後。レースは月に1回行っており JSAF 南九州が主催している。レース運営にかんしては各艇持ち回りでやっている。大きなレースは火山めぐりヨットレース 7/14~19、種子島レース 4/29、三島レース 7・28、ミニトン全日本 10/6~8 で予定されている。また高齢化が進んでいるがミニトン全日本に参加する方がいるのでぜひ盛り上げていきたい。チャーター艇も用意している。

外洋沖縄 予算厳しい状況ですが外洋東海主催の沖縄東海レースがあるので協力していきたい。また来年の合同会議に際には若手が集まってくるように期待している。

長崎 レースは月1回、大きなレースはハウステンボスヨットレース ことしは 80 艇内

IRC 艇が 10 艇程度であったが次回は 100 艇を目指したい。主催レースでは 50 マイル、46 マイルのレースを行っている。事故がありしばらく行っていなかったオーバーナイトのレースを企画しようとしている。また本会欠席の福岡に関して九州 IRC カップが今年行われ、IRC20 艇程度を目標としている

外洋近北 琵琶湖、舞鶴が主な拠点で、琵琶湖は年間 6 レース、舞鶴が 2 レース行われている。

琵琶湖では水域の事情ですべての艇が陸起きであり、ハーバーがクラブレースを行っているため

それに相乗りする形でレースを行っている。しかし全レースに参加する艇は 1, 2 艇程度。また登録艇は 22 艇いるが、西宮、東海へ行っている艇もあり、琵琶湖にはクルーザークラス 3 艇、7 艇のミニトンが活動している。

外洋東海 ミドルボート、パールレースのパンフレットはメールにて各水域に紹介させていただく。レースとしては全 9 レースを組んでいるが、今年度は春のレースは中止とした。他のレースはすべて実施し、パールレースは参加艇も増加しており、来年度は 50 艇を目指す。艇登録、メンバー登録も微増している。東海ではレースにおいて登録艇のみの参加としている。移行にはそれなりに気を使ったが無事に移行が完了したと思う。

津軽海峡 青函カップ参加は 15 艇前後であり、7/13～7/15 までのレース 参加艇の目標は 30 艇としている。次回は IRC で行うこともあり、協力をお願いしたい。また北前船復活プロジェクトで昨年に引き続き今年も 7 月中旬から出発し日本海から瀬戸内を通り神戸まで行くことを予定している。

X-35 例年通り 10 月に全日本大会をKYCにて実施する 現在日本に存在する X35 は 15 艇となっている。

東京ヨットクラブ 夢の島マリーナを拠点とするヨットクラブで、会員数 200 名程度、艇登録は 7 艇。オープンクラスでのレースを多く主催しており 7 月のスバルザカップは順調に進んできている。またダブルハンドヨットレース、東京湾インショアレガッタを企画している。

駿河湾 登録艇は減少している。予算が厳しい状況であったが経費等を見直し修正を行いなんとかプラスになるようにしていきたい。初日の出レースやタモリカップ 参加艇 40→80 艇のレースを行っているが登録艇が増加するように対応していきたい。

三浦 11月に小網代カップが50回大会を迎えるのでよろしくお願ひします。

北海道 5月～10月にかけて月2回レースを実施している。北海道からは青函カップに2艇参加しているので計測の際にはご協力お願ひしたい。

外洋東京湾 東京ヨットクラブと共同で行っている東京湾の北側のレースとトウキョウズカップなどの南側のレースを主催している。参加艇が100艇を超えるレースもありすそ野が広がったので、より高いレベルのレースも増やしているのだからもしっかりと運営していきたい。

湘南 逗子レガッタ、トランスサガミ、東海とのパールレースなど主催している。江の島ヨットハーバー、葉山マリーナに無線局を開設しようと考えている。

また外洋駿河湾藤田様より AIS 自動船舶通報装置を取り付けることにより安全に航行することができる、導入費用は7～8万円程度との紹介があり。

小林国際委員からシーサバイバル講習開催を検討すべき、との提案があり児玉常務理事からその開催について ISAF から案内も受けている。との説明があった。

吉田 IRC 委員長よりセイルナンバーのデータベース化と管理の件、熊本の6000番台セイルナンバーの件について質問があった。また JSAF 登録艇のセイルナンバーをHPで開示すべきとの意見を述べた。

児玉常務は セイルナンバー管理については現状過去からの資料一覧ができており各水域からの整理された情報が寄せられれば、公開できる準備はできている、熊本のセイルナンバーについては今後 発行する際は JSAF へ連絡いただけることになっている。また正式に取得していない艇がセイルナンバーを取得する場合は JSAF 側で振り当てられた番号を付与することとする。

次回の合同会議は沖縄で開催が予定されているので 沖縄外洋帆走協会の伊良波さんが閉会を取り行った。

以上を持って本会は2月5日12時に閉会とした。

議事録作成：三浦信郎（外洋東海）

議事録内容確認：2012年2月13日現在

羽柴宏次（レース委員会外洋小委員会）

大村雅一（ルール委員会外洋小委員会）

林賢之輔（外洋計測委員会）

吉田豊（外洋計測委員会 IRC 委員会）

水越英次（外洋計測委員会 IRC 委員会）

小林昇（国際委員会）

中澤信夫（キールボート強化委員会）

大坪明（外洋安全委員会）

鈴木保夫（外洋総務委員会）

以上